



利根中央病院だより

きらめき



第64号
2022年 夏号

発行責任者 利根中央病院 病院長
編集責任者 利根中央病院 事務長
〒378-0012 群馬県沼田市沼須町910-1
TEL：0278-22-4321（代表）
FAX：0278-22-4393
URL：https://www.tonehoken.or.jp/

総合診療科2021年度診療概要と 2022年度の取り組み



総合診療科科長 ^{すずき}鈴木 ^{さとし}諭

2021年度は、長期化したCOVID-19 pandemicによる発熱者/COVID-19患者診療体制を堅持しながらも、with/after COVID-19 pandemicに向けて社会生活が再開されていく中で、従前の診療を、どのように維持継続していくかを考える1年でした。また研修教育強化の一環として、下期には群馬大学大学院医学系研究科総合医療学や埼玉医科大学総合医療センターと連携し、新たに教育カンファレンスの定期開催を開始しました。総合診療専門研修専攻医の専門研修プログラム指定領域別研修や、当院関連群馬県内医療機関への研修環境整備等を目的としたスタッフ医師の診療支援等の影響により、2020年度同様、利根中央病院で通常診療に従事する医師は所属医師の2/3程度の人員となっていました。オンラインミーティングや業務用SNSツールの活用等のDX（デジタルトランスフォーメーション）を通じて、COVID-19 pandemicの中ではありますが、日常業務効率の改善と研修環境整備をすすめ、総合診療科所属医師それぞれの顔が見える関係性を意識しながら、1年間を過ごすことができたと考えています。

2022年度は新たにスタッフ、専攻医を迎え入れ

新体制でスタートしています。

今年度は新たな目標として以下の点に取り組みます。

- 1) 病棟診療チーム各チームに診療看護師を配置
- 2) 急性期病棟主治医が訪問診療を週1単位行えるシフト
- 3) 教育強化目的にチーフレジデントを配置
- 4) ジェンダーに関わらず育休取得できる職場作り
- 5) 他の専門研修プログラムとの専攻医交流

今年度も利根中央病院総合診療科をよろしく願いいたします。



急性期×在宅を駆け抜ける診療看護師

総合診療科科長 すずき 鈴木 さとし 諭

利根中央病院では、2022年度より総合診療科の一員として2名の診療看護師を迎え入れ、病棟診療を中心にチーム医療を展開しています。多疾患併存の社会的背景が複雑な患者さんが増加している山間僻地である当地域では、Biomedicalな対応だけではなくPsycho-Socialな視点で介護福祉分野を含めた検討が必要な入院患者さんが年々増加しています。診療看護師が入院チームに合流することで、患者さん一人一人の個性への対応が迅速かつ充実し

て行えるようになってきています。

来年度以降は「山間地域で診療看護師が訪問診療に向くスキーム」作りを進めていこうと考えています。医療過疎地域において、医師だけではなく診療看護師が在宅に向くことで医療の「かたち」が、また変わるのではないかと考えています。これは今現在、合流していただきました2名の診療看護師さんたちの夢でもあります。

診療看護師の紹介



あべ ゆうこ
安部 優子

今年の4月から勤務しております、安部優子と申します。

利根中央病院に来る前は北海道で勤務しておりました。診療看護師は新しい職種ではありますが皆さんとともに地域医療に貢献していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



みなみかわみ ゆき
南川美由紀

出身は石川県。

趣味は、着物を着て出かけること、おにぎり持参でのドライブ。

看護師歴28年目、診療看護師歴7年目。

主に外科領域、救急領域を経験。総合診療科で地域医療について学ぶために単身赴任でやってきました。

救急救命士とは

救急救命士は、救急救命処置を必要とする重度傷病者を医療機関に搬送するため、病院前救急医療の担い手として制定された資格です。令和3年9月までは、救急救命士の業務は、救急車の中や傷病者を救急車に乗せるまでの間と限定されていたため、救急救命士の多くは消防職員として消防機関に属していました。しかし救急救命士法の改定により救急救命処置の実施場所が「救急車内に加えて、病院もしくは診療所に到着し、該当病院または診療所に入院するまでの間」に拡大されました。そのことから救

副看護部長(外来師長) ^{かんげ}菅家まなみ



急救命士は、医療機関、特に救急外来等で活躍することが期待されます。

当院でも今年度から新たに救急救命士を救急科へ配置することとなりました。現在利根沼田医療圏の救急医療の多くを担う当院では、救急科体制の強化を図る必要があります。今回の救急救命士法の改定とともに救急救命士という新たな職種が加わりました。医療機関のメディカルスタッフの一員として今後飛躍していく事を期待しています。

救急救命士の紹介



4月より利根中央病院で働かせていただいております救急救命士の望月です。

私の主な仕事は救急外来での救急搬送されてくる傷病者の対応です。

私自身まだまだ経験の浅い救急救命士なので日々の勉強を怠らないよう努力するのは勿論のこと共に働く医療従事者たちから沢山の技術や考え方を学んで少しずつでも成長できたらと考えています。

救急救命士 ^{もちづき}望月 ^{あおと}碧人



似顔絵で癒しの場

4月22日入院患者様を対象に『第1回似顔絵セラピー』を開催しました。これは、今までの人生の中で、好きだったこと、好きだった場所を思い出してもらい、それを聴き対話するなかで、その方の人生を知らながら似顔絵で表現する癒しの企画です。

今回は、似顔絵セラピスト・イラストレーターの村岡ケンイチさんをお招きし、似顔絵を描いていただきました。村岡さんは日米韓の三か国で行われた似顔絵国際大会・白黒部門でなんと5連続優勝し、これまでに150を超える医療機関で似顔絵を描き、その活動はテレビや多くのメディアで紹介されています。

村岡さんは入院患者様7人それぞれのペースに合

似顔絵セラピーワーキンググループ

わせて優しく語りかけ、元気な姿を想像しながら描いていきます。最初は、緊張し固くなっていた方からも徐々に話を聴きだし、心を開いていく様子が見えはつきりと分かりました。「バリバリ仕事をしてたこと」「奥さんと出会った頃のこと」「温泉旅行に行ったこと」「音楽が好きでコンサートに行ったこと」…。描きあがり渡された絵を見て、自分の思い出が絵の中に表現され、笑顔になる方や嬉しさに泣き出す方もありました。話を聴き、絵を渡すまでのすべてが癒しになっているのだと感じました。

今後は村岡さんの指導を受け、病院の職員が似顔絵を描く似顔絵セラピーで、患者様を笑顔にする取り組みにし、病院全体で盛り上げていきたいです。



似顔絵セラピスト村岡ケンイチ氏

